

共感関係を大切にして言葉によるコミュニケーションを育てた実践

## 友だちといっしょに活動する子をめざして

本 城 幸 子

### はじめに

初めて出会った入学式の日、担任の呼びかけに全く応じず、校内を探索して走り回っていたY男。自閉的傾向という障害から多動傾向が目立ち、他人との接触を避け一人遊びに没頭しようとしていた本児が、体を使った遊びなどを通して、初めて自分の要求を身振りで伝達し始めたのは入学から2カ月後であった。現在2年生となり、学校生活にも見通しが持てるようになってきており、落ち着きにはまだ欠けるものの、クラス学習や合同学習でも自分勝手な行動が減り、着席行動がとれるようになってきている。担任やクラスの友だちとの身近な関わりを通して、少しずつ友だちと一緒に活動できるようになってきた本児の変容について述べてみたい。

### 1. プロフィール

#### (1) 生 育 暦

- ・昭和61年1月6日生 7歳10か月 小学2年 男子 自閉的傾向
- ・正常分娩
- ・3歳児検診において、言語の遅れを指摘。
- ・4歳で国立療養所N病院にて、自閉的傾向と診断。
- ・心身障害児通園施設 通園（平成2年4月～平成4年3月） 6歳3か月本校入学
- ・両親、祖父、祖母、3年生の姉の6人家族

#### (2) 諸検査による実態

- ・遠城寺式発達検査（H5.4実施）では、2：3～4：4歳の発達を示している。移動運動、手の運動、基本的習慣は比較的高い値を示しているが、特に対人関係や発語が落ち込んでいることがわかる。

#### (3) コミュニケーションに関する実態

- ・コミュニケーション発達チェックリスト（注1）では、特に他者に対する接近、模倣についての項目に大きな落ち込みが見られる。
- ・個人、想像、探求などの機能を持ち、道具的機能が高まりつつあるが、相互関係、規制、情報機能等、他者へ働きかける機能が弱い。
- ・コマーシャル等の遅延模倣を常に口にしてている。
- ・言語理解能力は比較的高く、教師の言語による指示に対してはほぼ理解を示し従うことができる。

項目	発達年齢														
	0	0	1	1	2	2	2	3	3	4	4				
移動運動	0	0	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4
手の運動	0	0	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4
基本的生活習慣	0	0	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4
対人関係	0	0	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4
発 語	0	0	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4
言語理解	0	0	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4

遠城寺式乳幼児発達診断検査

- ・本児のコミュニケーションの実態を、その内容、技能、意欲の3つの分野に分けると以下のようになる。

内容	物事に対する興味に大変偏りがあり、強いこだわりを持つ。好むこと以外は受け入れようとせず、新しいものには抵抗を示す。しかし、繰り返し、慣れれば興味を持つことはできる。
技能	パターン化した言葉以外では、自分の思いを表現しにくい。音声言語を使用せず、叫び声やクレーン現象等で要求を伝えようとすることもある。
意欲	こだわりに対する自分の要求なら、考えつく限りの言葉や動作を使って慣れた人になら伝えようとすることがある。それ以外のことで、自分から他者に関わりや声かけをしようとすることは少ない。慣れない人には無関心で、アイコンタクトをとらないことが多い。

#### (4) 行動特性

- ・こだわりが強く、多動傾向がある。
- ・機械類やカセットテープ等の一人遊びを好み、必要以外は他者と関わろうとしない。
- ・身体意識が希薄で、物によくぶつかる。
- ・文字や数の認知面はやや高く、ひらがな、かたかなの読み、100までの数唱ができる。
- ・少々のことではへこたれないたくましさ柔軟性を持っている。



カセットを操作して楽しむY男

## 2. 取り組みの構想

個人目標 友だちといっしょに活動する子

つきたい力 ・興味・関心の広がり（特に、人に対する） ・集中力 ・身体意識  
・他律的自制心

コミュニケーションに視点をあてた取り組み

仮説 本児は、自閉的傾向という障害から、対人関係や言語能力に落ち込みが見られる。そのため、自分の要求を伝えようとする意志はあるが、それを言葉で他者に訴えていくことが難しい。そこで教師が本児の生活に根差した伝達要求をくみ取り、エキスパッション<sup>※</sup>やモデリング<sup>※</sup>しながら正しい言葉使いを知らせて、本児の要求を言語化させる。そして本児の言葉による要求に対して、再び教師が丁寧に対応を返していくことで、他者と言葉でコミュニケーションすることの便利さを知らせたい。この便利さという利点を意欲づけとしながら、実際の生

活の必要場面で繰り返し指導していくことにより、本児が自分で使えるパターン化した自発語を増やしていきたい。それとともに、本児が興味を持って楽しんで取り組める活動を、担任やクラスの友だちと一緒に積み上げながら共感を深め、少しでもコミュニケーションの楽しさへとつなげていきたい。そして、そのことから自分以外の物事に対して少しずつ視野が広がり、友だちの行動に関心を持ったり一緒に行動しようとしたりする意欲が育っていくものとする。

めざすコミュニケーション像 自分の思いを自分の言葉で伝えようとする子

つきたい力

- ・生活経験に根差した内言語の深まり
- ・使える言葉の拡大
- ・教師や身近な友だちと共感する心

指導方針

- ①生活の中での本児の要求サインを見逃さないように心掛けて接する。
- ②本児に、まず伝えたい要求を持たせることが前提であり、一方的に教師が発語を強要しない。
- ③本児の興味や能力に合った教材を準備し、取り組みへの意欲を高める。
- ④見通しの持ちやすい簡潔・明快な指示を出すように努めるとともに、一つひとつの活動の流れを大切にす。
- ⑤友だちにしてあげる・してもらう・友だちと一緒にする活動を意図的に組み込んでいき、共感場面を多く作っていく。

### 3. 指導の実際

#### 生活単元学習における劇活動の取り組み

劇のストーリーに沿って何度も練習を繰り返す劇活動は、見通しが持ちやすく本児が意欲的に取り組んだ活動の一つであった。まず、教師が台詞と効果音を録音したカセットテープを作成し、家庭に持ち帰らせ、余暇に自由に聞かせるようにした。台詞は、なるべく一人ひとりの言葉の発達に見合ったものを考え、生活の中で自然に使っている言葉を取り入れるよう配慮した。全体のストーリーの流れが理解できると、見通し

を持って練習に取り組むことができた。特に本児は、決められた流れを何度も繰り返し行う活動に、喜んで取り組んだ。当初は、前方から指示を出す教師を見ることができないため、補助者が側から耳元で台詞を言い、それを反復させる形で台詞を定着させていった。また、文字の理解能力は高かった



「さるかにがっせん」では子がに役を(左)

ので、台詞をカードに書き、本児の場面でカードを見せて台詞を促すことを繰り返した。劇の練習形態がだんだんわかってくると、前を向いて指示者の合図を見ながら、自信を持って一人で台詞を言えるようになっていった。また、自由時間には、自分から劇のお面を友だちにかぶせて、劇遊びを誘いかける姿も見られるようになった。劇活動は、たくさんの友だちとの台詞や動作のやり取りで成り立っている。友だちの台詞を待ったり、一緒に言葉を言ったり動いたりする中で、友だちへの興味・関心が少しずつ育って行ったように思う。

**日常生活の指導の時間に**

日常生活の指導の時間は、生活に根差した要求の出やすい場面である。聞きたいカセットテープが棚の上にあって困っている本児に、「どうしたの？」

Y男と教師の会話

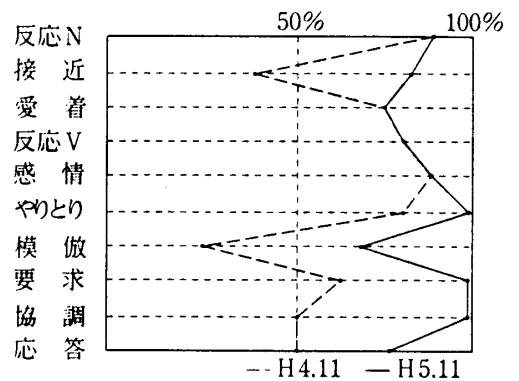
Y 男	教 師
(ボタンがとまらなくて困っている。)	
1. (教師を引っ張って) ん～。	1. どうしたの。
2. ボタン、ボタン。	2. ボタンをとめてください。
3. ボタンをとめてください。	3. (ボタンをとめて) はい、できたよ。

と声をかけると、どう答えていいのか分からない様子である。本児の気持ちをくみ取り、教師が「テープを取ってください。」とモデリングして反復させ、同じ状況のときに繰り返し指導した。言葉で要求を訴えると、要求をかなえてもらえるという便利さに次第に気づいた本児は、パターン化した言葉であれば自分から使えるようになってきつつある。

**4. 考察と今後の課題**

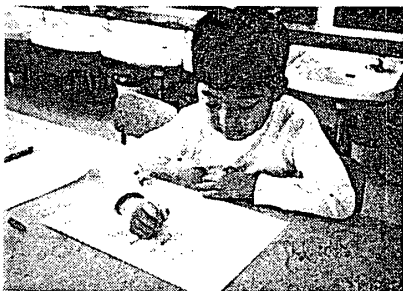
右図のコミュニケーション発達チェックリストによる、本児の1年間の変容を見ると、接近、模倣、要求、協調などの落ち込んでいた項目が伸び、全体的にも大きな伸びが見られている。

また、1年10カ月間の表出言語と対人関係の変容を次頁の表に示した。平成4年4月の入学当初はアイコンタクトがとれず、他人との関わりを避けていた本児だが、スキンシップを大切にラポートをとることを心掛けていくうち、2カ月後ぐらいから、身振りや教師の示した言葉を使って簡単な自分の要求を訴えるようになった。学習中も次第に落ち着きが見られるようになり、パターン化した言葉であれば教師の働きかけがなくても自分から「おしっこいきたいよ。」などと訴える場面も見られるようになった。また、自分でシールを貼って、「やったー。」と拍手するなど、少しずつではあるが心情を表出させる言葉も見られた。一年次は、自分が決めたとおりにならないと泣き叫ぶなどのパニックが時々あった。だが、要求がかなえられないときに「～だから、今はやめようね。」と理由を聞かせたり、初めから変更事項を告げたりすることによって納得できるようになり、パニックになることは今ではほとんどなくなってきている。



コミュニケーション発達チェックリスト内容意味別プロフィール表

	行 動	こ と ば
平成 4年度 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探索活動が多く、常に自分勝手に動き回る。</li> <li>・寝転んでオモチャの自動車を走らせて進む一人遊びを好む。教師が声かけや介入をしようとするときすぐ逃げる。</li> <li>・拘束場面で性器いじりがみられる。</li> <li>・常にカセットで音楽を聴き、止められると自分でずっと歌う。</li> <li>・土曜日の登校、掃除等、初めてのことに泣き叫ぶパニック。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマースナル等を絶えず一人でしゃべっている。</li> <li>・言葉による教師の指示はほぼ理解できる。</li> <li>・「どこに行くの？」の教師の問いに「おしっこ。」と答える。(それ以外の場合は答えられない)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が強くと要求すれば、朝の会で手遊びが部分的にできる。</li> <li>・友だちと短時間だが手がつなげだす。</li> <li>・E子のほったをつつくなど、友だちに関心を示し始める。</li> <li>・劇のペープサートを自分でみんなに配る。</li> <li>・教師の膝に乗るなどの愛着を示す行動が見られる。</li> <li>・おふろの学習で、体をこする模倣を10秒ほどする。</li> <li>・開校記念日の休校、制服の衣替えにパニック。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこに行くの？」の問いに対し、場所が書かれたカードを見ながら「プレイルームに行くよ。」と答える。</li> <li>・「プランコして。」</li> <li>・「(パンの袋を) あけてください。」</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーキングエイドに友だちの名前を入力して喜ぶ。</li> <li>・ボール遊びに自分から参加し20秒ほどする。</li> <li>・モグラたたきゲームのモグラを床に並べ、口でチュッとする人遊び。</li> <li>・全校朝会で20分ほど姿勢が保てる。</li> <li>・性器いじりがなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めめがいたいよ。」</li> <li>・「(シールが完成して) やったー。」</li> <li>・したいことや欲しいものを名詞で訴えることが頻繁。「おくつ、おくつ。」「ビデオー。」等。</li> <li>・「ケチャップー。」(「痛い」の意味)</li> </ul>
12月 ↓ 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの時、目線がびったり会うが増えるようになる。</li> <li>・みんなと一緒に初めて大きな声で部分的だが歌をうたう。</li> <li>・S男が休みであることを告げると床に伏して泣く。</li> <li>・オモチャの野菜を切って食べるみだつもりの活動を5分程度続ける。</li> <li>・劇遊びがしくて、お面を友だちにかぶせてまわる。</li> <li>・朝の会の簡単な司会が楽しんでできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「掃りにどこに行くの？」に対して「はいしゃ。」と答える。</li> <li>・要求したいことがたくさんあるが言葉にならず「あー」「んー。」などと言って叫んだり訴えることが多くなる。</li> <li>・S男の欠席が続くと「Sくんくるよー。」と、頻繁に訴える。</li> </ul>
平成 5年度 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生と30分程度手をつないで歩ける。</li> <li>・オモチャを使い、ままとを20分程度する。</li> <li>・みんなの前で、一人で大きな声で歌を発表する</li> <li>・バス通学開始。自家用車で母親が迎えにくると大泣きをするが以後は、事前に話すパニックなし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テープ、テープをとってください。」</li> <li>・「おかわりをください。」</li> <li>・「ボタンしてください。」</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた集団の中では、勝手に場所を動くことは少なくなる。</li> <li>・机上学習で、落ち着いて課題が終わるまで着席できることが増えた。</li> <li>・人形を風呂に入れたり、食べさせたりするみだつもりの活動を30分程度する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～しますよ。いいですか。」に対してエコラリアでなく「はい。」と返事。</li> <li>・あいさつの時に座っている児童があると「Tくん、立ってください。」と教師に向かって言う。</li> </ul>



なぞり書きをするY児



初めての友だちと汽車ぼっぼ



1年生と仲良く手をつないで

今後も本児の必要に根差した要求を生かしながら、使える言葉を増やしていきたい。また、本児の心情を言語化したり、名詞以外の簡単な抽象的な言葉も、教師が生活の中で示していきながら、内言語として温めていきたい。さらに、本児のこだわりや強い要求を利用しながらも、一つの中だけに埋没させてしまわず、したいことのたくさんある環境作りを心掛けていきたい。自我の充実期の真っ只中にある本児である。豊かな生活経験や人との共感のなかで自己の思いを十分膨らませていきたい。さらに今後は小学部中・高学年を目指して、自分で選んだり、考えたりできるような活動も少しずつ意図的に加えていきながら自己内対話へと結びつけ、自制心の芽生えへとつなげていくことも考えたい。